

千葉・市川大会 公開シンポジウム 「水鳥の標識調査－その魅力と課題を探る－」

今大会が開催される千葉県市川市の行徳野鳥保護区では、長年にわたり、サギ類、カワウのコロニーでの標識、越冬期のカモメ類の標識など、水鳥・海鳥を中心に、精力的な標識調査（カラーマーキング調査）が行われてきました。また近年では、ジオロケーターなど最新追跡機器による調査も実施されており、日本で越冬するセグロカモメの繁殖地を初めて解明するなど、大きな成果を上げてきました。

水鳥・海鳥は、一般的に小鳥類と比べて、「大きい」「観察しやすい」「寿命が長い」「特定の場所に集まる」などといった特徴があります。これらの特徴から、「長期的な個体群調査が可能」「リピート、リターン、リカバリーが出やすい」「一般観察者の目につきやすい」など、小鳥類とは異なった標識調査の魅力があります。

今回のシンポジウムでは、これらの魅力について、水鳥・海鳥を中心に標識調査を実施しているバンダー・研究者に話題提供をしていただき、その魅力と課題を探りたいと思います。

福田道雄氏より、行徳鳥獣保護区内のコロニーを含めた千葉県内と東京都内で、長年継続されてきたカワウのカラーマーキングでの成果と課題について話題提供いただきます。次に、成田章氏には、長期間にわたりが継続されている青森県蕪島のウミネコのコロニーでの標識調査を題材に、長期的な標識調査で解明できることや継続調査の魅力について報告いただきます。次に、そして、小田谷嘉弥氏には、これまで明らかになっていなかったジシギ類の識別や形態変異について、地道な調査で判明した新たな知見について報告します。最後に、バンダーではない研究者の視点から、バンダーと協力してシロチドリなど（しょうきん）類の調査をしている守屋年史氏より、バンダーとの共同調査や研究・保全への貢献についてお話をいただきます。

総合討論では、バンダーが水鳥・海鳥の標識調査を通して、どのように鳥学の発展や、保全へ貢献することができるのか、そのためにはどのような課題があるかを考えていきたいと思います。

【シンポジウム講演内容】

カワウのカラーマーキング　－東京・千葉での調査－

福田道雄（カワウ標識調査グループ）

蕪島での長期的な標識調査によって解明されたウミネコの生態

成田章¹・成田憲一²・富田直樹³・佐藤文男³・森本元³・尾崎清明³

(¹ウミネコ繁殖地蕪島を守る会(青森県総合学校教育センター), ²八戸市, ³山階鳥研)

チュウジシギの地理的変異とオオジシギとの識別

小田谷嘉弥（我孫子市鳥の博物館）

九十九里浜でのシロチドリ *Charadrius alexandrinus* 調査と保全

守屋年史（バードリサーチ）